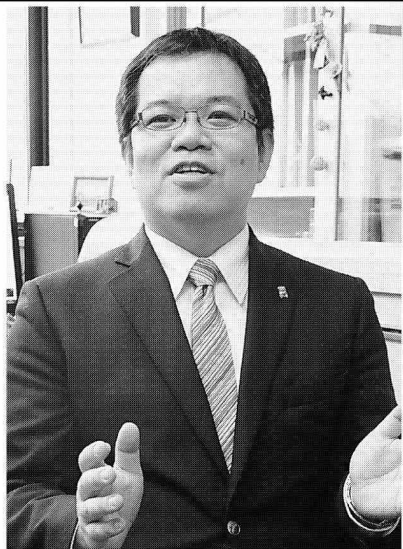


ひと 2016

持続可能な地域交通を考える北大大学院准教授

くにひろ
岸 邦宏さん



道内交通のあり方について自治体代表や交通事業者、有識者らが協議する道の「地域公共交通検討会議」の座長を昨年11月から務める。3月26日に北海道新幹線が開業する一方、経営難のJR北海道が路線縮小を検討するなど交通体系が大きく変化する今、「北海道の10年後、20年後を見据えた方向性を考えた」と意気込む。

専門は交通計画。道内各地から依頼を受け、地域交通の計画づくりなどに携わってきた。信条は現場主義。学生と共に何度も地域を回り、プランを練る。

地域内を循環するコミュニティバスを試験運行は、岩見沢市や十勝管内浦幌町、同管内中札内村の取り組みに参画。単なるバス運行だけでなく、中心部に住民の交流拠点もつくり、継続的にバス利用を促す仕組みを「地元の人たちと試行錯誤しながら考えた」と振り返る。

1970年、旧浜益村(現石狩市)生まれ。北大で学生、助教時代を過ごし、現在は北広島市で暮らす。この間、95年の深名線廃止、2006年のふるさと銀河線廃止などを目の当たりにしてきた。人口減少が進む道内で、JRの経営問題と交通網の維持の両立は課題だが「まずは地域ビジョンをしっかりと掲げること。そのために必要な交通は何かという順番で議論することが大切」と強調する。

どんな研究の際も「生まれ育った土地ですから」と北海道への思い入れは強い。趣味はマテ歩きと野球。45歳。(藤本卓郎)